

# 地域建設業の方向性について

---

## 地域建設業に期待される役割

地域インフラの整備、維持管理等を支えるとともに、災害時には最前線で安全・安心の確保を担う「地域の守り手」としての役割

## 地域建設業で今後生じる課題

- 中小の建設企業の経営体力が弱体化
- 担い手の安定的な確保が困難となり、企業経営に深刻な影響
- 建設企業数の減少が続く中、インフラの維持管理に支障をきたす地域が発生（家業として建設業を営む企業は後継者難に直面し、休廃業や解散が増加）
- 小規模自治体における適切な発注体制の維持が困難



## 地域建設業が今後目指すべき大きな方向性（たたき台）

- 経営基盤の強化や新たな技術の活用等による経営の質を高めることが必要となるのではないか。企業形態の将来像をどのように考えるか。
- 地域の基幹産業として、若者に支持され、安定的に担い手が確保できる魅力ある産業づくりが必要ではないか。
- 専門性を活かし、建設業周辺の需要を取り込む企業経営も必要となってくるのではないか。業態の将来の姿についてどのように考えるか。
- 地域の中で役割を果たす建設企業が安定的に事業を実施し、地域の安全・安心を担うためにどのような取組が必要か
- 地域に根ざした建設企業が安定的に業務を行えるよう、単独企業の取り組みだけでは限界がある中、地域の企業間の協力をどのように進めるべきか。競争性の確保にどのように配慮すべきか。

地域建設業の目指すべき方向性を実現するために、今後どのような取組の方向性が必要と考えられるか

## 個々の企業の取組み

- 技術力の強化等による経営効率の向上
- 将来成長が見込まれる分野での事業（維持管理や建設業と親和性のある事業等）
- 給料、休日等地域建設業の担い手の処遇の改善

## 地域ぐるみの取組み

- 地域の建設業関係団体を中心となって若者入職者の教育訓練を実施
- 限られた技術者、技能者を地域で効果的・効率的に活用するための仕組み

## 公共発注者の取組み

- 公共工事の品質確保や担い手確保に配慮した適切な発注関係事務の実施
- 地域インフラを地域に根ざした建設企業が共同して安定的に維持管理するための仕組み
- 発注事務の共同化や民間委託（CM等）を活用